土曜国語　　２０２５年３月
第　４４　号

〔この一言〕
子どもの「次はこうしたい」を生み出す（ｂｙあすこま）　加賀幸一　2

〔提言〕
子どもの学びに伴走する国語教師の構えについて　上田　真　4

〔名国研の「いま」〕
1　話すこと・聞くこと部会
「自己選択・自己決定」して学び進めるために　長坂耕司　8

2　書くこと部会
児童が自走しながら書くことの学習に取り組むことができるようにするために　近藤雄介　14

3　小学校・読むこと部会
「子どもたちが自走する学び」を目指して　岡田真奈　22

4　中学校・読むこと部会
子どもが自走する読みの授業の創造　上條貴史　28
－「自己選択・自己決定を重視した学び」「教師の伴走」を中心に－　山田一輝

5　言語・書写部会
生徒が「ＰＤＣＡサイクル」を意識して取り組む書写指導　倉地恵一郎　34

〔名古屋市教育研究員　研究を語る〕
主体的に物語を読む事ができる児童の育成　伊藤　隆　40
～読むことの学習過程における自由進度学習を取り入れた指導～

〔「指導体験記録」執筆を振り返って〕
友達と協働して学びを進めることができる児童の育成　大澤佳枝　46
－「アイテム」を活用して自らの課題を探究する「マイ研」の活動－

〔授業研究部だより〕　平野陽子　熊谷太志　52

〔全国大会見てある記〕　竹内義信　佐々木太樹　56

〔この一冊〕　土田虎生輝　原田仁史　58

〔教室Ｑ＆Ａ〕　60
〔編集後記〕　62
名古屋国語教育研究会のあゆみ　66

（題字　河合良昌）

この一言

子どもの「次はこうしたい」を生み出す（by あすこま）

加賀幸一
（名古屋市立正木小学校）

名古屋国語教育研究会のみなさん、一年間、様々な活動お疲れ様でした。研究会は任意団体であり、その活動は基本的には勤務時間の外で行うことになります。しかしながら、より良い授業を目指して研究・修養に努めることは教員の義務でもあります。教員の働き方にも変化が生じている中、時間を工夫しながら研究会活動に取り組んでいただいたみなさんに心から敬意を表したいと思います。

さて、今回私が選んだ「この一言」は、オンライン講演会でご講演いただいた、軽井沢風越学園の国語科担当教諭、澤田英輔（通称あすこま）先生のお言葉です。多くの会員のみなさんが参加された講演会ですが、あすこま先生の話された内容をもとにして、改めて所感を述べたいと思います。

あすこま先生の国語の授業は「作家の時間」と「読書家の時間」のふたつで構成されています。「作家の時間」は、あるひとつのテーマのもとで基本は自由に文章を綴ります。書く内容は物語でもエッセイでも何でも構わないそうです。「読書家の時間」は、多読を励ましながら自分で選んだ本を自由に読みます。国語の授業は大きく分けるとこの二つだけだそうです。ブレイクアウトルームでのみなさんの会話をすべて聞いたわけではありませんが、おそらく、大半の方が同じような感想や疑問を抱いたのではないでしょうか。「知識・技能の習得はどのようにしているのか」「他学年はどのように実践しているのか」などです。かくいう私も、ブレイクアウトルームで同様の感想を述べていました。

それらの質問に対してのあすこま先生のお答えは、終始一貫していたように思います。「知識・技能については、カンファランス（助言）で個別に指導するが、それよりも子どもの『次はこうしたい』を生み出すことの優先順位が高い」でした。

ちなみに、私たちのブレイクアウトルームで出た質問の、「語彙指導はどうしているのか」「漢字指導はどうしているのか」に対しても、「多読に勝る語彙指導はない」「漢字指導だけは週一で行っている」と、後日、明快なお答えをいただきました。

昔から、「教科書を教えるのではなく教科書で教える」とはよく言われてきました。しかし、意識のどこかで、必要以上に教科書にしばられているのではないでしょうか。教科書無償給与制度のもとで配布されている教科書の使用はもちろん必要です。知識・技能の習得も必要です。そのうえで、各教室での授業実践は、かなりの割合で教師の指導性に委ねられています。教科書で教える知識・技能よりも、

「次はこうしたい」という意欲を生み出すことの方が、これからを生きていく子どもにとっては有意義なのではないかと改めて感じさせられました。

私が研究活動に勤しんでいた時代（極々わずかな時間ではありますが）、どちらかと言うと多読主義とは一線を画し、精読主義を基本として実践を進めていました。やはり、教室である以上は読み方の指導があるべきだし、指導によって読む楽しさを味わわせ、子どもの「次はこうしたい」につなげることを大きな目標としていました。

あすこま先生も、子どもの「次はこうしたい」を生み出すことを優先してはおられますが、一方でカンファランスという手法で知識・技能の指導を個別に行っておられます。知識・技能指導が優先されることによって、子どもの意欲を減退させることは本意ではありませんが、反面、子どもの意欲を向上させるような知識・技能指導も必ずあると思っています。**子どもの「次はこうしたい」をこれまで以上に大切にしつつ、知識・技能の指導はどのようにあるべきか**、まさに教師のさじ加減に委ねられています。あすこま先生の理念を参考に、子どもの次への意欲を中心に据えた、先生方の自由な発想をもとにした実践を期待します。

◆◆◆◆◆◆◆

さて、創刊四十四年を数える「土曜国語」は、研究内容のみに特化した紀要的な収録ではなく、「特集」や「この一冊」など、ことばを取り扱う国語科の特性を生かした内容を扱ってきました。また、名古屋国語教育研究会の会員のみを対象とするのではなく、幅広い読者を想定していたものと聞いています。しかしながら、昨今の用紙代の高騰や執筆者の負担などの問題が生じていたことも事実です。

そこで、今年度、広報部のみなさんのご尽力により、この「土曜国語」のあり方を見直していただきました。具体的には、冊子の大きさをＢ５からＡ４に変更するとともに、コンセプトを「名古屋国語教育研究会の取り組みの記録」としていきます。（ですから、今回敢えて、「名古屋国語教育研究会のみなさん…」で始めさせていただきました。）これまでの創刊魂を大切にしつつ、より実態に即した形への変更を目指します。

この「土曜国語」がさらに名古屋国語教育研究会にとって大切な存在となることを願っています。

今後ともよろしくお願いいたします。